

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱18 生涯にわたる多様な学びを推進する

取組39 多様な課題に対応した学習機会の充実

担当課 生涯学習課

○地域の課題解決に向けた「課題解決支援講座」など、社会情勢の変化に即した多様な学習機会を提供します。

令和3年度の取組実績	・放課後子ども教室・児童クラブ、土曜スクールの関係者を対象に、放課後を利用した豊かな体験活動についての講演会を開催した。生涯学習のICT化を図るため、オンラインと参集を併用して開催した。
成果	・NPOと連携した放課後子ども教室等の在り方について事例を紹介できた。 (オンラインによる参加者242人、参集による参加者27人)
課題	・コロナ禍により子ども達の体験活動が減少していることを危惧する参加者が多かった。 ・引き続き、様々な体験活動のあり方について提案していきたい。

○県内各地で開催される講座や講師人材のデータベースなど、県民ニーズに対応した学習情報を提供します。

令和3年度の取組実績	・群馬県生涯学習情報提供システム(旧まなびねっとぐんま)を利用し、県内の講座・イベントやボランティア講師の情報を提供した。
成果	・デジタルトランスフォーメーション課や産業経済部と連携により「湯けむりフォーラム」や「ぐんま未来のモビリティ教室」の情報を掲載できた。 (年間 講座登録数293件、登録団体数538機関)
課題	・若い世代の参加を促す学習情報を充実させる。 ・講座・イベント情報の登録する団体数を増加させる。

○効果的な講座の開催や学習情報の提供を行うため、公民館や高校、大学など関係機関との連携を推進します。

令和3年度の取組実績	・社会教育推進セミナーにおいて、県内の公民館職員やNPOを講師に招聘した講座を実施した。
成果	・講座参加者と同じ立場の方が講師を務めることで、身近で具体的な内容の講座とできた。 (参加者141人 肯定的な評価100%)
課題	・博物館等と連携した講座の企画、情報発信を図る。

○県民の学習成果を地域で生かすことができるよう、自主企画講座の開催に関する情報発信や、講師情報の市町村への提供等を支援します。

令和3年度の取組実績	・群馬県生涯学習情報提供システム(旧まなびねっとぐんま)を利用し、県内の個人や団体が主催する講座・イベントや講師の情報を提供した。
成果	・新規にボランティア講師3人を登録することができた。 (個人・団体が主催する講座・イベント 71件、ボランティア講師 74人)
課題	・ぐんま県民カレッジや群馬県生涯学習情報提供システムの認知度を上げる必要がある。

○市町村や社会教育団体等と連携し、障害のある人と障害のない人が共に学ぶ機会を充実します。

令和3年度の取組実績	・県立図書館において、視覚障害者等用図書として大活字本を購入した。(146千円、45冊) ・県立図書館において、オーディオブック(音読CD)の充実を図った。(99千円、20点)
成果	・視覚障害者等も利用しやすい読書環境の整備を進め、学ぶ機会の充実が図られた。
課題	・障害者の生涯学習推進に向けて、各分野の関係機関との連携に取り組む必要がある。

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱18 生涯にわたる多様な学びを推進する

取組40	社会教育施設の有効活用	担当課	生涯学習課、(知)文化振興課
○社会情勢の変化に即し、生涯学習の拠点として多くの県民に活用されるよう適切な施設運営に取り組みます。			
令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、市町村及び関係機関・団体と連携を図りながら、生涯学習センターを拠点に多様な生涯学習活動の支援を行った。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き各施設の定員を制限するなど感染症対策を行ったが、緊急事態宣言期間中も限定的に開館していたため、入館者数は78,712人（前年度比173.7%）と大幅に増加した。 貸し館利用者数も42,436人（前年度比146.2%）と増加した。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策に万全を期しつつ、今後の感染状況に応じて利用制限の緩和等について検討する必要がある。 今後の施設の在り方や運営体制について検討を進める必要がある。 		

○多様な県民ニーズに対応できるよう、施設職員の資質の向上及び施設・設備の計画的な更新・修繕に取り組みます。			
令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年12月の群馬県公共施設予約システム導入の際には、会計年度任用職員も含めた貸館業務を担当する職員が操作研修を受講した。また、年度当初、人事異動に伴う転入者への講習会を毎年実施している。 省エネルギー及び地球温暖化対策として体育館の照明器具をLED器具に交換するとともに、所要の補修等を実施した。 施設劣化の状況を把握するために必要な定期点検を実施した。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 施設や設備の欠陥、不備等による事故発生はなかった。 点検結果から施設の現状や問題点を捉え、次年度の修繕要望に反映した。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 施設設置後30年以上経過していることから補修を要する箇所が多く、利用者の安全とニーズを踏まえ、計画的に補修及び整備を行う必要がある。 多様な県民サービスに対応できるよう、施設職員の資質の向上を図る。 		

○ぐんま天文台では、大型望遠鏡による天体観察などの本物体験の提供と、きめ細やかな教育普及活動を通して、天文・自然科学への興味・関心を高め、天文学のすそ野拡大を推進します。			
令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍において、オンラインも活用しながら天文授業サポートや出前講座を積極的に実施し、学校現場や地域への天文学の普及に貢献した。 YouTubeチャンネル「tsulunos」を活用して流星群や月食等のライブ配信を行った。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 学校現場や地域に赴いて天文学のすそ野を広げるとともに、動画配信等を活用することにより、多様な学習機会を提供できた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 動画配信等を活用して積極的な広報、PRを行う。 来館者の安全確保に配慮し、施設設備や観測機器の適正な維持管理と計画的な修繕を行う。 		

○ぐんま昆虫の森では、身近な昆虫との触れ合いや自然体験を重視したプログラムの提供を通して、生き物相互の関わり合いや、生命の大切さ、自然環境に対する理解を深められるよう取り組みます。			
令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 季節展や特別展、飼育講座等を実施した。 効果的な学校利用を促進するための教育補完施設としての機能・役割を維持した。（小学校164校利用） 県民参加による施設づくりを実施した。（解説や体験指導ボランティア100人） 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 自然体験など様々な体験活動の場を提供することにより、子どもたちの自然環境に対する理解を深めることに貢献している。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 施設の特徴を生かした、季節展や特別展等の主催事業プログラムの更なる充実を図る。 出前講座の開催等、所外にも積極的に出向き、県民に自然体験活動の機会を提供していく。 インターネットを活用した情報発信の充実を図る。 		

○近代美術館では、日本と西洋の近・現代美術を中心に幅広い美術品の収集・展示、優れた美術の鑑賞機会を提供する企画展の開催や、教育普及活動の充実などに取り組みます。	
令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数：34,062人 ・教育普及事業参加者数：2,411人 ・来館者満足度：96%
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・展示事業では、コレクション展示のほか、企画展示「デミタスカップの愉しみ」及び「関東南画のゆくえ 江戸と上毛を彩る画人たち」並びに特別展示「線のメルヘン 南桂子と銅版画家たち」を開催した。 ・新型コロナウイルス感染防止対策のため昨年度延期された公募展「群馬青年ビエンナーレ」を今年度開催した。318組（321人）から459点の応募を得た。 ・教育普及事業では、学校団体を16団体受け入れるとともに、10校で出張授業を行うとともに、子どもアートツアー、子ども+おとな+夏の美術館、美術館アートまつり、企画展示に関するシンポジウム等、さまざまな事業を行った。 ・フェイスブック、ツイッター、ホームページをはじめ、美術館ニュースの発行などにより情報発信を行った。 ・将来の作品収集や企画展示につなげるため、調査研究を行った
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、展示・教育普及事業等の質の向上、来館者数の維持、来館者満足度の水準確保に努める必要がある。

○館林美術館では、「自然と人間」をテーマに作品を収集・展示するとともに、学校教育との連携、幅広い年代層に向けた講演会やワークショップなどの教育普及事業などに取り組みます。	
令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数：38,580人 ・教育普及事業参加者数：3,860人 ・来館者満足度：99%
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「水に浮かぶ島のように」はまん延防止等重点措置の影響で期間が大幅に短縮されたものの、開館20周年を迎える館の作品収集の歴史を振り返りながら、作品を通じて館の特色を表現することができた。「たてびレポート」では所蔵品に加え、現代作家を招き、地元住民や学校、館林市と連携したことで盛り上がりを見せた。また、「永井一正のポスターデザイン」では、館のテーマに合致したコレクションが高く評価された。 ・開館20周年記念のメインとなる「フランソワ・ポンポン」は、当館が企画監修を行う国内初の巡回展として内外から注目された。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・開館20周年の企画展5本を無事に終え、これからの10年に向けて館林美術館らしい運営を模索したい。

○歴史博物館では、東国文化の中心であった群馬の特色をアピールするとともに、展示室でのタイムリーなトピック展示や企画展の開催、小・中学校の歴史教育での利用促進を行います。	
令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数：73,832人 ・教育普及事業参加者数：30,049人 ・来館者満足度：89.5%
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・近代から現代までの古墳と人々の関わりを紹介する企画展を開催した。 ・埴輪王国ぐんまを発信するため、最先端のデジタル技術を導入した「デジタル埴輪展示室」をオープンさせた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今後も「新しい生活様式」に沿って企画展やイベントを開催し、また学校教育との連携強化を目指していきたい。

○自然史博物館では、地球の誕生から現在まで約46億年の生命進化の歴史や本県の豊かな自然をジオラマ等で紹介するとともに、観察会など各種教育普及事業等に取り組みます。

令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者：129,301人 ・教育普及事業参加者数：19,137人 ・来館者満足度：100%（常設展示）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・第64回企画展「鳥がトリであるために」を開催した。（会期 7月17日～9月5日、9月11日～12月5日。時間指定、人数制限による事前予約制） ・展示点数：1,210点（うち当館所蔵標本1,200点）、期間中観覧者数：74,700人、満足度：94%
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防策を徹底しながら、安心・安全で、来館者満足の向上に繋がる教育普及事業を企画、実施していきたい。 ・ウィズコロナにおける持続的な学習プログラムの開発を行いたい。

○土屋文明記念文学館では、本県ゆかりの文学資料の収集・研究、魅力ある企画展や文学講座の開催、学校と連携して短歌を中心とする文学に関する教育普及活動などに取り組みます。

令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者・利用者総数：23,064人（うち教育普及事業参加者数：9,493人） ・来館者満足度：95%以上 ・展覧会、講座 <ul style="list-style-type: none"> 第111～114回企画展（計4回）開催。 文学講座（計2回）、参加者数108人 ・教育普及事業（抜粋） <ul style="list-style-type: none"> 「歌人が学校に！」（短歌教室）9校（小学校6校、中学校2校、高校1校）、児童生徒671人 学校団体受入 4校（小学校2校、中学校1校、高校1校）、参加350人（延べ） 出前・オンライン授業（学校連携）2校（小学校1校、中学校1校）、児童生徒19人
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・第112回「宮沢賢治—みんなのほんとうのさいわいをさがしに—」では、あらゆる生き物と響き合う宮沢賢治の作品を紹介できた。 ・第113回「わらう！太宰治」では、苦悩を書く作家のイメージにおさまらない、ユーモアや機知に富む太宰文学の懐の深さを紹介できた。 ・コロナ渦の中で行事の中止や会期変更等あったが、アンケートなどによる観覧者の満足度は95%以上と高く、多くのお客様に好評価をいただいた。 ・tsulunosでの動画公開やSNSでの情報発信など、Webを活用して県民の皆様に楽しんでいただけた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も来館者目線で、より魅力的な展示及びイベント等を実施したい。 ・動画配信等を活用しながら、文学全般の魅力を県内外に発信したい。

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱18 生涯にわたる多様な学びを推進する

取組41 読書活動の充実と県立図書館の機能強化 担当課 義務教育課、高校教育課、生涯学習課

○全ての県民の読書活動を支援するための環境整備を推進します。

令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 相互貸借システムの運営を行った。(利用回数: 12,755回) 図書館未設置町村の公民館図書室に対する図書一括貸出を行った。(利用冊数: 8,040冊) 円滑な物流のための市町村支援協力車の定期的な運行・居住地返却を実施した。 図書館横断検索システムの運営を行った。(利用回数303,295回)
成果	<ul style="list-style-type: none"> 図書一括貸出の実施により、人口の少ない地域住民へ利用可能な図書数を増やすことができた。 図書館横断検索や相互貸借システムの運営により、県内各地の所蔵資料を幅広く利用することができ、図書館の利用が促進され、県民の読書環境が向上した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 図書館横断検索や相互貸借システムの周知を行う。 令和5年1月の電子書籍サービス開始に向けて準備を行う。

○子どもが自主的に読書活動を行うことができるよう、学校、家庭、地域で連携した取組を進めます。

令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 全国高等学校ビブリオバトル2021群馬県大会を開催した。(参加者: 53人)
成果	<ul style="list-style-type: none"> 全国高等学校ビブリオバトル2021群馬県大会の開催により、県民に高校生の読書活動について関心を持ってもらうことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 学校、家庭、地域における読書環境を整備する。

○県民にとって身近な市町村立図書館(室)の充実を図るため、図書館ネットワークの中核館として県立図書館による支援を実施します。

令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 相互貸借担当者会議の開催は中止となったが、動画配信で対応した。 【群馬県図書館協会事業】 図書館(室)職員初級研修を動画配信で開催した。(参加者: 67人) 図書館(室)職員実務研修を動画配信で開催した。(申込者: 152人) 群馬県図書館大会を動画配信で開催した。(参加者: 232人)
成果	<ul style="list-style-type: none"> 実務的な内容を学ぶための研修会や図書館運営等の見識を広げるための図書館大会を動画配信で開催することで、県内公共図書館職員に学ぶ機会を提供することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 県内の公共図書館・図書室、大学図書館、学校図書館のネットワーク化を推進する。 県内公共図書館職員の資質向上及び図書館サービスの向上を図る。

○県立図書館における県民の課題解決につながる高度な専門的情報サービス(レファレンスサービス)を提供する機能を充実します。

令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 高度で専門的な調査・研究に対応するため、新たに532冊のレファレンス資料を受入・整備した。 雑誌記事索引の検索できるデータベースを新たに導入して商用データベースの種類を拡充した。【R3拡充】 職員のスキルアップを図るため、国立国会図書館の遠隔研修動画を活用した研修を実施した。 SNS(Facebook)を活用して、調査相談室を紹介する記事をアップした。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 県内市町村立図書館や学校図書館等で解決できない難解・高度なレファレンス事案を46件受付・回答した。 受け付けた質問を元にして、今後のレファレンスに役立つ群馬県関係の事例等を新規に196件データベースへ登録した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> レファレンス技術・知識の承継を図り、より高度で専門的な調査に対応できる職員の人材を育成する。 市町村立図書館及び学校図書館等への協力レファレンスを更に推進する。 若年層へのレファレンスサービスの周知を図る。

○身近な読書環境の一つとして、県立高校における学校図書館の一般開放を行います。	
令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における新型コロナウイルス感染症の状況等を見ながら、可能な範囲で学校図書館の一般開放を行った。（県立高校59校のうち、26校で実施）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に開かれた学校図書館という役割を果たすことができた。 ・学校の教育活動や学校図書館への理解を深めてもらうことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者以外の方が来校するため、生徒の安全確保について課題がある。 ・地域の感染状況等を見極め、学校図書館の一般開放の在り方について検討する必要がある。

○司書教諭や学校図書館職員の専門性を高め、児童生徒が興味・関心を持って積極的に利用するような学校図書館づくりを推進します。	
令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校図書館充実事業」において、各教科における学校図書館を利用した指導、学校図書館の整備・充実、学校図書館のネット環境整備の充実が図れるよう助言した。 ・指定校の公開授業及び講演会を実施するとともに、県教委HPに学校図書館年間活用計画、授業実践を掲載した。 ・12学級以上の公立小・中学校における学校司書発令状況が100%であった。 ・学校図書館研修会を開催した。（受講者：49人） ・学校司書のための学校図書館活用講座を動画配信で開催した。（申込者：45人）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校図書館充実事業」の実践校では、図書館司書と連携した授業が実践されることで、学校図書館の利活用が促進された。ICT活用に関する授業についても提案できた。 ・司書教諭の配置により、学校図書館司書との連携が図れ、学校図書館の環境整備や、読み聞かせ等の読書活動の推進をすることができた。 ・有識者による講義や具体的な演習により、学校図書館の利活用に役立つ内容を提供することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・他課や公立図書館との連携を一層図り、司書教諭や学校司書の研修を充実させる必要がある。特に、学校司書については、出張旅費等の関係で出張ができない状況であるため、その点を考慮した研修の形を考えていく必要がある。 ・今後も、講師の選定や内容を工夫しながら、継続して研修会や講座を開催していく。

○学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能の一層の充実を図り、各教科・科目等における学校図書館を利用した指導や、日常生活における読書活動を推進します。	
令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校図書館充実事業」において、各教科における学校図書館を利用した指導、学校図書館の整備・充実、学校図書館のネット環境整備の充実が図れるよう助言した。 ・県教委HPに実践校の学校図書館年間活用計画、授業実践、実践発表資料を掲載した。 ・指定校の取り組みについて、公開授業を実施した。（コロナ禍のため縮小開催ではあったが、参加者から肯定的な感想が多かった。）
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校図書館充実事業」の実践校の各教科における学校図書館を利用した指導を周知することができた。 ・「読書センター」としての役割だけでなく、「学習センター」「情報センター」として学校図書館を活用する授業実践が見られ、それぞれの機能の充実が図られた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・HPで公開している実践校の取組について、さらに多くの学校に周知していく必要がある。 ・1人1台端末導入の状況下で、「情報センター」の機能の充実について検討していく必要がある。

施策の柱 1 8 における指標の状況、令和 4 年度の方向

指標の状況

指標		策定時		目標値	2022.4月末時点の最新値		進捗率	備考 (進捗が芳しくない場合 や数値に大幅な上下が あった場合等、説明を記 入)
項目	細目	数値	年度		数値	年度		
「まなびねっとぐんま」 トップページのアクセス件 数		58,798件	2017	73,800件	35,321件	2021	-156.5%	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各市町村で講座が実施されなかったことが影響した。また、H29から有料の民間カルチャーセンターを連携講座から除外したため、以降のアクセス数が減少している。
昆虫の森、天文台の入場者 数（2所の合計）		145,110人	2017	148,000人	101,443人	2021	-1511.0%	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月16日～6月13日まで閉園したことや、不要不急の外出を控える動きが影響した。
県立図書館におけるレファ レンスサービス件数 (事柄や事実調査、文献調 査等の専門的情報提供サー ビスの件数。利用相談(書 架案内や所蔵調査)は除 く。)		6,867件	2017	7,700件	4,856件	2021	-241.4%	新型コロナ感染症対応として換気と消毒を行うため、開館時間を短縮(12時～13時閉館)している。また、利用制限をかけた影響は大きく、コロナ禍以前の利用者が戻っていない。

令和 4 年度の方向

- ・各館の利用を促し、その機能を充分活用してもらうために、ホームページやデータベースの改善等を図る。
- ・県立図書館では令和 5 年1月に電子書籍サービスを開始する予定である。電子書籍の特性を生かし、新たな利用者の増加を目指したい。
- ・各社会教育施設で実施する事業等について、対象者毎に適した広報媒体を使い分けるとともに、様々な機会を捉え、積極的に生涯学習に係る周知啓発に努めていく。

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱19 社会教育を推進する

取組42	地域の学びを支える人材づくり	担当課	生涯学習課
------	----------------	-----	-------

○人権教育や青少年教育等、各分野における指導者の育成を進めます。

令和3年度の取組実績	・教育事務所ごとに「群馬県人権教育の基本方針」「群馬県人権教育充実指針」に基づいた人権教育を推進するために必要な事項の研修や協議を計9回実施。381名を養成した。
成果	・新型コロナウイルス感染拡大の影響により当初の計画を変更し、人数を制限した参加体験型学習会や資料配付・動画配信による研修等、実施方法を工夫することで学習機会を確保し、地域の指導者としての人権感覚を高めることができた。
課題	・指導者養成の充実と資質の向上を図る。

○育成した指導者が、公民館や学校等地域で活躍できるよう、市町村等に働きかけます。

令和3年度の取組実績	・地区別人権教育指導者研修会において、市町村担当者に対し、指導者の積極的な活用について依頼した。
成果	・指導者の活用に関して、活躍の場の設定や指導者の意識に課題があることを市町村担当者と共有できた。
課題	・育成した指導者の活用に向け、市町村への支援について県で検討をする必要がある。

○社会教育主事、社会教育委員、市町村担当職員等、社会教育の中核となる人材の資質能力を向上させます。

令和3年度の取組実績	・県市町村社会教育主事及び関係施設職員等を対象に研修会を実施した。（Web会議システムによるオンライン研修 参加者75人） ・県市町村の新任社会教育委員等を対象に研修会を実施した。（Web会議システムによるオンライン研修 参加者142人） ・県市町村社会教育委員、生涯学習・社会教育関係団体の関係者、社会教育行政関係者等を対象に研究大会を実施した。（Web会議システムによるオンライン研修 参加者273人）
成果	・社会教育主事や社会教育委員等を対象とした各種研修会において、今後期待される社会教育の役割や県内外の先進事例について、オンラインによる講演や事例発表（動画配信）など効果的に研修することで、社会教育の中核となる人材の資質能力の向上につなげることができた。
課題	・コロナ禍における新しい時代の社会教育推進に向けて、社会教育関係職員を対象とした各種研修がより充実した研修になるよう参集とオンラインを併用するなど、研修方法及び内容を工夫する必要がある。

○福祉などの社会教育に関係深い部局との連携や市町村における社会教育の振興を図るとともに、各社会教育関係団体の育成及び団体間の連携を進めます。

令和3年度の取組実績	・社会教育団体に対して活動の充実を図るための事業費補助を行った。
成果	・地域における社会教育活動の活性化が図られるとともに、県が実施する社会教育推進上の諸施策にも積極的に協力していただいた。
課題	・少子高齢化等による団体活力の低下を防ぐ必要がある。

基本施策8 生涯学習社会の構築

施策の柱19 社会教育を推進する

取組43	青少年教育の推進
担当課	高校教育課、生涯学習課、(知)生活こども課、(知)児童福祉・青少年課

○自然体験や各種体験活動を通じて、青少年の豊かな人間性や社会性を育みます。	
令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・県立青少年自然の家3所にて、林間学校等で利用する学校等に対し各種プログラムを提供した。 <ul style="list-style-type: none"> ○提供プログラム：野外炊事、キャンプファイヤー、登山、クラフト作成等 ○学校等利用団体数：226団体
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年自然の家の管理運営を通して、生活体験や自然体験など様々な体験活動の場を提供することにより、子どもたちの「生きる力」の育成に貢献している。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境及び地域の伝統・文化等、各所の特色を生かし、各事業のプログラムの充実を図る。 ・学校や青少年団体、家族、企業等の利用拡大に向け、動画の作成等による広報の推進を図る。

○親子や異年齢・異世代での体験活動・集団活動を通じて、家庭や地域の教育力の向上を目指します。	
令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・県立青少年自然の家3所にて青少年自然体験事業を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ○親子体験活動（親子デイキャンプ、登山、星空観察等）参加者数 延べ226人 ○自然体験活動（オープンデー、冬期ホリデー、出前講座等）参加者数 延べ1,294人 ○宿泊自然体験活動（1泊2日程度の長期キャンプ）参加者数 33人
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年及びその保護者を主たる対象として、様々な自然体験活動を提供することにより、青少年の主体性や協調性、社会性、問題解決能力等「生きる力」を育成するとともに、家庭や地域の教育力向上にも資することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、青少年団体等のニーズに沿った新規プログラムを開発し、提供していく。 ・出前講座の開催等、所外にも積極的に出向き、県民に自然体験活動の機会を提供していく。

○青少年のボランティアを養成するとともに、ボランティア活動の場を提供します。	
令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・県立青少年自然の家3所における実施 <ul style="list-style-type: none"> ○青少年ボランティア養成 延べ54人受講、青少年ボランティア体験 延べ255人参加 ・（公財）県青少年育成事業団による指定管理事業による実施 <ul style="list-style-type: none"> ○こどもふれあいワークショップ 14人受講、中学生・高校生交流ボランティア体験 中止
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の心構えや留意点等について講義・演習を実施するとともに、ボランティア活動の場を提供することにより、社会の構成員としての規範意識や責任感、倫理観等を身に付けた青少年ボランティアの育成に資することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア養成では、各所の自然環境等を有効に活用し、講義・演習のプログラムについて充実を図る。また、必要に応じて動画配信等を活用していく。 ・ボランティア体験では、より多くの中高生が参加しやすいような実施時期及び日程を検討する。

○不登校、非行、ひきこもり等、様々な悩みを抱える青少年及びその保護者等を対象に、相談活動や体験活動を通して自立・再学習支援事業を行うほか、青少年の意欲を高め、自立を促す活動プログラムを効果的に実施します。	
令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年自立・再学習支援事業（G-SKY Plan）を実施した。 相談等延べ件数：650件、体験活動実施数：16件（延べ20件）、進路相談会：2回開催 ・学びを通じたステップアップ支援促進事業を実施した。 学習相談：260人、学習支援：計60日実施、参加延べ人数98人 ・子ども・若者支援協議会において相談を受けるとともに、高校中退者等訪問支援事業により支援員を派遣し、青少年及びその保護者等に寄り添う支援を行った。（訪問支援継続中12件（うち観察対象なし））
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた支援を継続的に行うことで、復学や進学、高卒認定試験の受験等につながった利用者も見られた。相談活動・体験活動・学習支援等の提供を通して、当該青少年の自立や保護者への支援に資することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・外出ができない引きこもり状態の利用者に対して、本人の希望に沿った形での相談方法を検討していく。また、必要に応じて関係機関との連携を図りながら支援を行っていく。 ・支援を必要とした若者が本事業につながるよう、広報活動を充実させ事業周知に努める。 ・関係機関が連携した、切れ目のない支援が必要である。

○青少年関係団体の活動の活性化を通じた青少年健全育成を目指し、県内全域で活動する青少年団体との連携や団体への支援を行います。	
令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育（青少年教育）関係団体事業補助金を実施した。 （青少年教育関係3団体（日本ボーイスカウト群馬県連盟、ガールスカウト群馬県連盟、群馬県子ども育成連合会）における活動に対して補助金を助成。（総額850千円：催事補助金）） ・青少年健全育成に係る事業の実施、指導者育成を実施した。 ・子ども・若者支援協議会において相談を受けるとともに、高校中退者等訪問支援事業により支援員を派遣し、青少年及びその保護者等に寄り添う支援を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日本ボーイスカウト群馬県連盟、ガールスカウト群馬県連盟、群馬県子ども会育成連合会への補助金による支援を通して、青少年健全育成の一助とすることができた。 ・高校中退者等訪問支援 継続中12件
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各組織に属していない一般の青少年も参加可能なイベントの実施について、推進していくことが望ましい。 ・関係機関が連携した、切れ目のない支援が必要である。

○中・高校生が将来の家族形成を含めた人生設計を考えるため、自らのライフデザインを考える機会の創出に取り組みます。	
令和3年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の授業において、青年期の自立や課題、子どもや高齢者の生活と福祉などの学習を通して、生徒の様々な人々に対する理解を深めるよう取り組んだ。 ・家庭や地域社会の果たす役割や、共に支え合って生きる社会の重要性等、ライフデザインについて考えさせるよう取り組んだ。 ・高大連携ライフデザイン支援事業【R3新規】 高校生を対象にライフデザインについて主体的に考える機会を提供するため、県内大学・高校が連携し、高校生と大学生とのワークショップ形式の授業等を実施した。 ・ライフデザインセミナー（県職員による出前講座） 県内高校でライフデザインセミナーを実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。 ・若者の人生設計応援！事業補助金 民間団体等が行う若者向けライフデザイン支援の取組に係る経費を補助した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の学習等を通じて、生徒が人生の各ライフステージの特徴と課題について学び、自立した生活を営むための意思決定やライフデザインの在り方について、将来の生き方の構想を描く一助とすることができた。 ・家庭や地域社会の果たす役割、共に支え合って生活することの重要性について生徒に認識させることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・中・高校生は「キャリアデザイン」に比べ、自らの「ライフデザイン」を考える機会は充分であるとは言えないため、様々な機会の創出を進める必要がある。 ・自己実現、将来の家庭生活などについて考え、自立や家族・家庭の在り方、子供や高齢者の生活などについて理解し、共に協力していくことの重要性を理解する必要がある、引き続き継続して実施する必要がある。

施策の柱19における指標の状況、令和4年度の方向、基本施策8に対する点検・評価委員会の主な意見、全体に対する点検・評価委員会の主な意見

指標の状況

指標		策定時		目標値	2022.4月末時点の最新値		進捗率	備考 (進捗が芳しくない場合や数値に大幅な上下があった場合等、説明を記入)
項目	細目	数値	年度		数値	年度		
「青少年ボランティア養成事業」に係る事業への参加者数（県立青少年自然の家3施設+青少年会館の合計）		584人	2017	650人	323人	2021	-395%	新型コロナウイルス感染拡大防止のため一部事業が中止となった。

令和4年度の方向

- ・ボランティア養成事業では、各所の自然環境等を有効に活用するとともに、ボランティア活動を行う際の心構えや留意点等、受講者がボランティアの基礎を一通り学べるよう、講義・演習のプログラムについて充実を図る。
- ・ボランティア体験事業では、中高生が参加しやすいように主催事業及び夏季休業中だけでなく、秋から冬にかけての土日にも募集を行う。また、参加者の希望で日帰りか宿泊かを選択して参加できるようにする。
- ・ボランティア活動に興味がある若者が情報を得られるように、広報活動を充実させ事業周知に努める。
- ・各社会教育施設で実施する事業等について、対象者毎に適した広報媒体を使い分けるとともに、様々な機会を捉え、積極的に生涯学習に係る周知啓発に努めていく。

基本施策8に対する「群馬県教育委員会の点検・評価委員会」の主な意見

評価できる点

- ・県立図書館による相互貸借や図書館未設置町村への支援は、利用者から好評を得られており、県立図書館の存在価値を高めている。

課題

- ・社会教育施設について、子どもたちをはじめとする利用者のニーズを踏まえ、前例にとられない柔軟な発想により、整備や活用方法を検討していくべきである。

全体に対する「群馬県教育委員会の点検・評価委員会」の主な意見

評価できる点

- ・県教育委員会全体で、多岐にわたる各目標の達成に向けて、着実に取組を進められている。

課題

- ・各事業について、過年度の課題に応じ、次年度の取組を柔軟に変えていくことが必要である。
- ・教育振興基本計画に掲げる目標を絞る、計画期間を短期にするなどの工夫により、教育委員会全体として業務を精選し、集中的に取り組む事業を明確にしてはどうか。
- ・教員が大量退職する時期を迎えており、より一層効果的に再任用制度を運用し、ベテラン教員の能力を最大限に生かせるよう工夫していく必要がある。